

平成 24 年度

文部科学省 大学教育改革推進事業

「産業界ニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」

『地域産業界連携教育力改革プロジェクト』

プロジェクト活動成果発表会

平成 25 年 12 月 17 日

豊橋創造大学 情報ビジネス学部

【情報ビジネス学部】プロジェクト活動成果発表会 次 第

1. 日時:12月17日(火) 14:50～17:30(4, 5限)

2. 場所:豊橋創造大学 B14教室

3. プログラム:

14:50～14:55	挨拶(伊藤晴康学長より)
14:55～15:55	プロジェクト発表 第1セッション (4プロジェクト)
15:55～16:10	休憩
16:10～17:10	プロジェクト発表 第2セッション (4プロジェクト)
17:10～17:15	挨拶(佐藤学部長より)
17:15～17:30	全体写真撮影
17:30	閉会

4. 発表順番・時間

＜第1セッション＞

順番	発表・質疑応答	プロジェクト名	プロジェクトテーマ
1	14:55 ～ 15:10	石田プロジェクト	PB 競争時代における地元スーパーの生き残り戦略
2	15:10 ～ 15:25	今井プロジェクト	携帯端末向けアプリ作成
3	15:25 ～ 15:40	川戸プロジェクト	SOZOショップ笑輪のコラボプロジェクト
4	15:40 ～ 15:55	見目プロジェクト	豊橋エコタウン・プロジェクト

＜第2セッション＞

順番	発表・質疑応答	プロジェクト名	プロジェクトテーマ
5	16:10 ～ 16:25	中野プロジェクト	アカウミガメの保護プロジェクト
6	16:25 ～ 16:40	野口プロジェクト	高校生と学ぶ会計学☆多
7	16:40 ～ 16:55	三好プロジェクト	トヨハシ♡(ハート) ヨシプロジェクト
8	16:55 ～ 17:10	三輪・山口プロジェクト	WE ♡ NONHO I

※各プロジェクトで発表 10 分、質疑応答 4 分、写真撮影および交代 1 分とする。

※発表時間終了1分前で1鈴、終了で2鈴を鳴らす。

以上

豊橋創造大学 情報ビジネス学部 プロジェクト活動成果発表会

参 加 者 名 簿

【来賓】

敬称略順不同

会 社 名	役 職 名	氏 名
株式会社 アイエスエル	システム部	伊 藤 弘 尚
豊橋市企画部政策企画課	主事	鈴 木 裕 二
豊橋鉄道 株式会社	鉄道部 運輸営業課	織 笠 真 至
豊橋市企画部シティプロモーション推進室		鈴 木 豪
国立大学法人 三重大学	学生総合支援センター特任講師	後 藤 綾 文

【本学】

情報ビジネス学部

役 職	氏 名
学部長・教授	佐 藤 勝 尚
学科長・教授	三 好 哲 也
教授	石 田 宏 之
教授	今 井 正 文
教授	川 戸 和 英
教授	見 目 喜 重
教授	小 坂 井 博
教授	島 田 大 助
教授	中 野 一 豊
教授	中 野 聡
准教授	加 藤 尚 子
准教授	三 輪 多 恵 子
准教授	山 口 満
講師	野 口 倫 央
嘱託講師	森 田 佐 知 子

地域産業界連携教育力改革プロジェクト委員会メンバー他

役 職	氏 名
学長	伊 藤 晴 康
副学長	木 村 和 夫
短大部 情報工学部 科 長	今 泉 仁 志
短大部 情報工学部 准教授	村 松 史 子
短大部 情報工学部 講師	細 谷 邦 夫
短大部 情報工学部 講師	伊 藤 圭 一
事務局長	前 川 文 男
渉外部長	中 村 隆 三
キャリアセンター室長	伊 藤 欣 也
教務課長	佐 々 木 令
教務課長補佐	遠 山 直 人
教務課主任	若 松 雄 一 郎
サポートセンター主任	桐 木 道 彦
キャリアセンター主任	富 安 奈 々
キャリアセンター職員	黒 木 竜 馬
CKP 専属事務職員	和 田 利 子

豊橋創造大学情報ビジネス学部 プロジェクト連携企業・団体一覧

(株)アイエスエル

愛知県立犬山高等学校

(株)S R A 中部事業所

お亀堂

絹一製菓(株)

ココット

(株)サンヨネ

J A豊橋

大正軒

高橋農園

豊橋観光コンベンション協会

豊橋市教育委員会

豊橋市環境部環境保全課

豊橋市企画部政策企画課

豊橋市企画部シティープロモーション推進室

豊橋総合動植物公園

豊橋みどりの協会

豊橋市立松山小学校区子ども会

豊橋鉄道(株)

特定非営利法人 ワライフ

藤ノ花女子高等学校

(株)ほの国百貨店

ボンとらや

マッターホーン

若松園

ワルツ

(敬称略順不同)

活 動 報 告

頁	プロジェクト名	プロジェクトテーマ
1	石田プロジェクト	P B 競争時代における地元スーパーの生き残り戦略
2	今井プロジェクト	携帯端末向けアプリ作成
3	川戸プロジェクト	S O Z O ショップ笑輪のコラボプロジェクト
4	見目プロジェクト	豊橋エコタウン・プロジェクト
5	中野プロジェクト	アカウミガメの保護プロジェクト
6	野口プロジェクト	高校生と学ぶ会計学☆彡
7	三好プロジェクト	トヨハシ♡ (ハート) ヨシプロジェクト
8	三輪・山口プロジェクト	WE ♡ NONHO I

P B 競争時代における地元スーパーの生き残り戦略

石田プロジェクト

1. プロジェクトメンバー

安藤 祐輝・21123202、酒井 裕輝・21123112、
井上 晃成・21123207、井上 高彰・21123208
久米 佑典・21123214、柴田 和樹・21123217
牧野 広季・21123901

2. 連携先企業・組織（協力企業等と調査個所）

(1) 協力企業等（ヒアリング箇所）

①サンヨネ本社（三浦本部長よりヒアリング）、②豊橋農協及び高橋農園

(2) 調査個所（実態調査）

①コンビニ：セブンイレブン、ファミリーマート、ローソン、サークルKサンクス、②スーパー；マックスバリュ、イトーヨーカ堂、バロー、クックマート、サンヨネ

3. プロジェクトの調査内容と分担

調査の目的は以下の点（各自の分担内容）を明らかにすることである。

①NB 及び PB 商品の定義と PB 競争時代（井上高彰）②NB 商品及び PB 商品の価格比較と高級 PB 商品の出現（久米）、
③PB 商品を製造するメーカー及び野菜の PB 商品を生産する農家・農協の対応（牧野、井上晃成、柴田）④これら PB 商品を的確に供給するロジスティクス・システム（酒井）、
⑥PB 競争時代の地域スーパー（東三河）の生き残り戦略（安藤）

4. 実施計画

調査方法とスケジュールは、以下の通り。

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
文献調査												
ヒアリング及び実態調査												
報告書作成					中間報告				本報告			報告書作成

①文献調査：日本経済新聞社・編「PB・格安・高品質競争の最前線」（2009 年 11 月）、大野尚弘「PB 戦略—その構造とダイナミクス—」（2010 年 2 月）、富士通ロジスティクスソリューションチーム・編「中間流通はだれが担うか—小売業・卸売業・メーカー・運搬倉庫業：18 社の先進事例—」、②日本経済新聞、日経産業新聞、日経流通新聞等の新聞記事 ③ヒアリング及び実態調査（本プロジェクトでは、主として食品および野菜を対象とした）

5. 実施結果

長期にわたるデフレの影響による「低価格化のニーズ」は、1990 年代後半から大手スーパーが手掛け、2000 年初めにコンビニ波及した PB 商品の開発に始まった PB 競争時代をもたらした。この競争は、今回対象とした食品及び野菜以外にもあらゆる産業・商品で展開されている。

その結果、NB 商品より高い高級 PB 商品の出現により、従来から定義されている「ブランド」の内容とコンビニのほうがスーパーより高いという常識を変えようとしていることがわかった。

PB 商品開発・生産を支えているのが、中小メーカー及び生産農家・農協であり、新しい流通経路を構築することになる。一方、NB 生産メーカーもスーパーなどとの共同開発による PB 生産も始めている。新しい流通経路に対しても、不都合なく納品を可能にしているのが、ロジスティクス・システムである。

このようなスーパー、コンビニによる PB 競争時代の中で、東三河を中心にした地域スーパーの生き残りには、3 つのパターンが存在する。その第 1 が中部圏を中心にさらに店舗拡大を図り、CGS グループのような共同開発・共同仕入れ開発型を目指す中堅スーパーバロー型、第 2 が地域密着型で、今後は、バロー方式の規模拡大を目指すか、大手スーパー・コンビニに吸収されるかのクックマート型、第 3 が地域拡大や店舗拡大ではなく、「食の安全と食の楽しさを大切にする」ことをコンセプトにした地域密着型のサンヨネ型の 3 種類がある事が判明した。

6. プロジェクトの成果（自己評価）

今回のプロジェクトを通し、環境変化により従来の常識が変化することを学んだとともに、ヒアリングではなく、各店舗に出向いての実態調査の難しさを学んだ。

調査結果をまとめるにあたって、担当ごとに分担し 1 人 3 枚のパワーポイントを作成することにより、それぞれ責任を持って作業することの大切を学んだ。また、最後に、それぞれ発表要旨を作成し、代表が全体を報告する練習をしながら、チームが一丸となってやり遂げることの重要性を学んだ。

携帯端末向けアプリ作成

今井ゼミプロジェクト

1. プロジェクトメンバー

田頭和也 (21123120)、勝見拓矢 (21123108)、
石川真次 (21023201)、水野翔太 (21023120)、
壁谷竜輝 (21023712)、亀之内順也 (20923707)

2. 協力先企業・組織

株式会社 SRA 名古屋事業所様、株式会社アイエスエル様、小坂井高校様 (協力予定)

3. プロジェクトの背景と目的

AndroidOS 搭載端末や iPhone などの携帯端末の普及により、アプリを使用する機会が増えてきた。アプリは、個人で制作することも可能であり、現在では様々なアプリが生み出されている。体調管理支援のアプリや LINE などのコミュニケーションツール、Evernote などのクラウド技術を用いたアプリやサービスもある。

本プロジェクトでは、本学の学生の携帯端末の活用を考え、アプリ制作や LMS の構築をテーマとした。

4. 実施計画

アプリ制作にあたっては、本学の学生の利便性の改善が議論の中心となった。まずは、本学のバス利用者がバスの時刻を調べるには大学から配布された手帳や豊鉄バス HP の PDF ファイルを見て確認しなければならず不便であることから、バス時刻表アプリを制作する事とした。また、並行して携帯端末活用の観点から、e ラーニングの実施に必要な学習管理システム (LMS : Learning Management System) の一つである Moodle を用いて小テストシステムを作成し、iPad との連携についての検証も行った。

5. 実施結果

アプリの制作方法や開発環境の検討にあたり、協力先企業様への見学やアドバイスをお願いし、参考とした。株式会社 SRA 名古屋事業所様からは学校教学システムの概要と開発環境等を、株式会社アイエスエル様からは HTML、JavaScript、jQueryMobile 等による Web アプリ開発環境等について助言頂いた。

実際の開発にあたって、クラウド上にありブラウザ上で動作する Monaca という開発環境を使用する。Monaca を使用することによって作られたハイブリッドアプリには、iPhone と Android の両端末で動作させることができ、開発環境を別々に用意する必要がないというメリットがある。まず、JavaScript を用いて、現在時刻の取得や、近時のバスの検索を容易にする機能等を実装した。

次に JavaScript コード記述の一部を簡略化する jQuery を導入し、図 1 のようなスライド機能を追加した。図 1 に示すように、左右にスライドすることで現在閲覧している時刻の前後を見ることができるようになった。

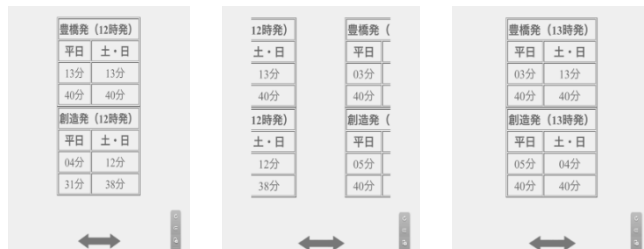


図 1 時刻表アプリ (スライド機能の実装)

また、並行して e ラーニングの実施に必要な LMS の一つである moodle を利用して、小テストシステムを作成した。moodle 管理作業を簡単に学び、小テストの問題を作成した。

授業内での iPad 活用についての協力要請が小坂井高校様からあり、プロジェクト活動として対応した。要望は多岐にわたるが、今回は、体育における各グループの iPad によるビデオ撮影とそれらの無線 (Wi-Fi) 経由での教員 PC への提出システムの構築を行った。

6. プロジェクトの成果 (自己評価)

まず、JavaScript を用いた基本機能の実装から始めて、jQuery の導入による操作性の向上を図りながら、アプリの作成を行った。開発環境や制作方法の時点からを協力企業の方にご助言を頂き、アプリ開発の基礎や様々な制作方法を学ぶことができた。反省点としては、アプリ開発に関する役割分担が明確化できず作業のスケジュール調整にも支障が出た事や、アプリのデザインも望むようなデザインにすることはできなかった事等が挙げられる。

また、moodle の管理等の作業を学びながら小テストシステムの構築を行う事によって、サーバ側の開発過程の一部を学ぶことが出来たと考える。ただ、教育向けアプリ開発も視野に株式会社 SRA 名古屋事業所様の見学等も行い教育向けシステムについてご助言頂いたが、本格的なアプリ開発までは至らなかったと考えている。

今後は、試作アプリのテストや残りの作業を分担しスケジュールを調整しながら取り組む予定である。可能なら moodle 関連の実用化や更に高度なアプリ開発に取り組んでいきたい。

小坂井高校様については、今回のビデオ提出システム以外にもご要望を頂いているので、今後も担当者様と連携しながら、活動を継続していく予定である。

SOZO ショップ運営とコラボプロジェクト

川戸プロジェクト

1.プロジェクトメンバー

松本教史(20923122),伊豫田英将(21123105)
浪崎祥平(21123125),廣中佑紀(21123127)
馬 駿(21123130),伊藤奨麻(21123205)
佐々木智至(21123216)

2.連携企業・組織

- 1)NPO 団体「パルク」
- 2)コラボ：ほの国百貨店
：松山小学校

3.プロジェクトの背景と目的

- 1)4/26 開店の「笑輪」を発展させる
 - 2)ほの国百貨店や松山小学校とコラボすることによって
- 1.現実の百貨店のマネジメントを体験する
 - 2.笑輪の PR
 - 3.地域の人との交流により、接客力が向上

4.実施計画

- 1)文献購読
- 2)店舗開店・経営
- 3)企業見学
- 4)コラボ先を探す

5.実施結果

4 月

- ① 文献購読
- ② 店舗開店、経営
- ③ 中部国際空港企業見学

7 月

- ④ 松山小学校子供夕涼み大会、出店

10 月

- ⑤ 笑輪、店舗レイアウト
- ⑥ ほの国百貨店とのコラボ企画決定
- ⑦ 創造祭にて笑輪出店

12 月

- ⑧ ほの国百貨店「親子ふれあい広場」実施予定

6.プロジェクトの成果（自己評価）

- ① 売り上げは伸びたが、客足は少ない
- ② マネジメントに対しての認識が広がった
- ③ 空港のマネジメント方法の認識が広がった
- ④ 接客や、臨機応変に対処
- ⑤ レイアウトを変える事によって理想のショップに近づけることができた
- ⑥ 松山小の反省を生かし商品を完売することができた
- ⑦ 自分達の企画を採用してもらい、地域の有力企業とのコラボが実現
- ⑧ コラボを実施する事により、接客力の向上ショップの PR



豊橋エコタウンプロジェクト

～小中学校に設置された太陽光発電システムの状況調査～

見目プロジェクト

1. プロジェクトメンバー

本プロジェクトは、見目ゼミの7名のメンバーで実施する。

田辺俊希（20923215）、惣門健人（21123118）、
鈴木涼太（21123117）、眞子匠（21123132）、
杉元篤史（21123220）、鈴木啓吾（21123221）
中川千加（21123228）

2. 連携先企業・組織

本プロジェクトの実施に当たっては、以下の行政機関と連携する。

豊橋市教育委員会 教育政策課
担当者 渡会小枝子

3. プロジェクトの背景と目的

近年、化石エネルギーの枯渇問題や脱原子力発電への対応として、再生可能エネルギーの普及が求められている。その中でも太陽光発電は、一般住宅への設置が容易であるなどの利点から急速に普及が拡大している。しかし、その普及に伴って太陽光パネルの性能劣化や故障といった長期信頼性が問題化している。

長期信頼性の評価には、長期的にデータを収集する必要がある。本研究では、豊橋市内の小中学校（全74校）に設置されている太陽光発電システムを対象に、太陽光発電システムの稼働状況を調査し、その長期信頼性に関する基礎データを収集して分析する。

4. 実施計画

4.1 市内小中学校の太陽光発電の稼働状況訪問調査

秋学期は、市内小中学校の訪問調査を本格的に行った。太陽光発電の長期信頼性を評価するためには、故障状況と性能劣化の両面からシステムを調査する必要がある。今回は、故障状況を確認する訪問調査を行った。また、一部の小中学校からは発電データを提供いただき、そのデータをもとに性能劣化の分析を行った。

4.2 訪問調査の流れ

訪問調査は、以下の流れで実施した。

- ①豊橋市教育委員会から各小中学校の担当者に依頼状を送付
- ②本学より各校に依頼状を送付
- ③メンバー各自、各校に訪問日程を調整
- ④訪問調査を実施
- ⑤訪問終了後、学校にお礼状を送付

このように訪問調査を行うため、電話対応マニュアルを作成するとともに、訪問担当校の分担の決定、質問項目の決定、お礼状の作成等を行った。

4.3 訪問調査内容

訪問調査では、太陽電池パネルのメーカー、パネルの設置枚数、パネル周囲の障害物の有無、定期点検の有無など、システムの設置状況を確認した。また、表示板で発電状況を確認するとともに、システムの事故・トラブルの有無等について担当者に質問した。

5. 実施結果

5.1 故障・トラブルの状況確認

訪問調査の結果、本年度は、9件の故障・トラブルを確認した。その中に、発電への影響が高い故障・トラブルが7件あった。また、昨年度に引き続き故障・トラブルが改善されていないものも2件あった。一方で、一部の小中学校では太陽光発電システムの点検が行われていた。

5.2 性能劣化の分析

豊城中、吉田方中を対象に、変換効率の推移から性能劣化の分析を試みた。詳細な分析とそのとりまとめを今後も継続して実施する予定である。

6. プロジェクトの成果（自己評価）

訪問調査では、分担して協力することで全小中学校を回ることができた。一方で、分析・資料作成では役割分担がうまく機能せず、結果として一部の人間に作業が集中してしまった。また、訪問の際に取得すべき必要な情報を共有できなかった。以上のことから、常に協調性を持ち、コミュニケーションをとるよう務めることが今後の課題である。

アカウミガメ保護啓発活動

中野聡プロジェクト

1. プロジェクトメンバー

内藤規文 (21123227)、白濱祥輝 (21123218)、
浅井昭宏 (21123201)、田中皓也 (21123222)、
石部広貴 (21123102)、佐々木勇太 (21123113)

2. 連携先企業・組織

豊橋市役所環境部環境保全課 兵藤様、田中様

3. プロジェクトの背景と目的

私たちは日本の環境保護活動を担いたいと思い、豊橋市の行っている活動を調査した。調べてみると豊橋の表浜海岸はアカウミガメが上陸・産卵に来る日本有数の海岸であること、豊橋市がウミガメの保護活動を行っていることがわかった。また豊橋市の行っているアカウミガメの保護活動理念に賛同したため、プロジェクトのテーマに設定した。目的は、保護活動を通してウミガメの生態の理解を深め、自ら保護啓発活動を行うことである。また、他県・世界の保護の取り組みを調査し、豊橋市の取り組みに協力する。啓発活動を展開し、市民のウミガメ保護に関する認知と理解を深めてもらえれば幸いである。

4. 実施計画

春学期

学外団体のイベント参加

自主的上陸調査・保護活動

秋学期

自主的上陸調査・保護活動(継続)

保護啓発リーフレット作成・配布

保護活動についてのご提案

映像作品の制作

市役所に保護活動についてのご提案

5. 実施結果

7月20日 「竜宮探検～表浜のアカウミガメ調査委員養成講座～」の参加、7月27日、8月3日 「ア

カウミガメの来る表浜海岸の自然観察会」の参加。

9月～12月保護啓発リーフレット作成、保護活動についての提案、映像作品の制作などを行った。

具体的には、

① 豊橋市役所へ他県・他国の取り組みをまとめた報告書を提出、

② 学内、市内サーフショップ、および豊橋西高校へのリーフレット配布、

③ 表浜海岸に出向き清掃活動などを行った。

今後の予定は、

④ 教育機関と市民館でのリーフレット配布、

⑤ 映像作品の完成後、創造大学 Facebook、Youtubeへアップロードし、市内教育機関においてウミガメ保護活動の広報を行うことを予定している。

6. プロジェクトの成果（自己評価）

達成率 50%

達成率は、50%とした。理由は、秋学期当初に立てた目標をすべて遂行することができなかったからだ。1つ1つの成果物の質の向上に努めすぎたため、重要な期日を満たす事が出来なかった。今後は達成度を100%にするために、プロジェクトを進めて行きたい。



【表浜海岸にて7月27日22:30頃撮影】

『高校生と学ぶ会計学☆』

野口プロジェクト

1. プロジェクトメンバー

井手 一希 (21123103)、斉藤 諒祐 (21123111)
曾越 崇史 (21123119)、糸数 隆佑 (21123206)
加藤 国靖 (21123212)、唐沢 龍介 (21123213)
中村 仁哉 (21123230、
担当教員 野口 倫央

2. 連携先企業・組織

- ・ 藤ノ花女子高校・朝倉丈徳様
- ・ 犬山高校(商業科)・山口正彦様

3. プロジェクトの背景と目的

現代の企業人は、英語・パソコン・会計を具備しなければならないと言われて、久しい。英語・パソコンに関しては、義務教育の中において学習する機会がある。しかしながら、会計学に関して学習するのは大学に入ってからである。

企業活動の主たる目的が利益獲得であり、その利益を測定するのは、会計学固有の役割である。多くの者が企業に携わるにも関わらず、企業の目的に関する基礎理論が欠如しているのは、社会全体から考えて、大きな損失である。

そこで、高校生に会計学の学習の場を提供しようと考えたのが、このプロジェクトの背景である。具体的には、高校生に興味のあるディズニーに焦点を当て、ディズニーの財務分析を行い、その結果の報告を通じて、会計学に関する情報を発信することで、高校教育に欠けている会計学に興味を抱き、その重要性に気付いてもらうことを目的として活動を行った。

4. 実施計画

月	活動内容
4月・5月	プロジェクトテーマの選定
5月～8月	財務会計・国際会計・経営分析に関する基礎知識の修得 → 伊藤邦雄(2012)『現代会計入門』日本経済新聞出版社の輪読を中心に
8月6日	中間報告会

9月～11月	ディズニーリゾートの財務分析の学習 → 有価証券報告書やアニュアル・レポートの分析を中心に
10月17日	藤ノ花女子高校でプレゼン
12月10日	犬山高校でのプレゼン
12月17日	成果報告会

5. 実施結果

上記4で示した実施計画は、途中軌道修正を行いながら、概ね遂行された。次の表は、藤ノ花女子高校および犬山高校でのプレゼンの概要である。

実施校	対象人数	プレゼン内容
藤ノ花女子高校	約400人	・有価証券報告書の記載情報の紹介 ・アトラクションへの投資額の紹介 ・収益性分析
犬山高校	約40人	・財務諸表の役割紹介 ・財務分析指標の紹介 ・収益性分析 ・安全性分析 ・財務分析に関するクイズ

本プロジェクトの目的を達成できたか否かの判断は、アンケート分析を通じて行うこととした。

その結果、次のような結果となった。なお、2校合わせた有効回答数は339人であった。

質問項目	そう思う	そう思わない
会計学に興味をもったか	206人 (60.8%)	133人 (39.2%)
会計は将来の人生において役に立つと思うか	298人 (87.9%)	41人 (12.1%)
会計学を学びたいと感じたか	209人 (61.7%)	130人 (38.3%)

これをみる限り、約88%に将来における会計の重要性を認識して頂くことができ、さらに60%以上の人に会計学に興味を持ってもらうことができた。さらに60%以上の人々が、会計学を今後学習したいと感じて頂けたのは、大きな成果であった。

6. プロジェクトの成果（自己評価）

今回のプロジェクト活動を通じて、高校生を相手にして、チームの見解を納得させられるような、表現力・コミュニケーション力の重要性を感じた。さらに、役割分担し、自身の担当部分について責任感を持って取り組み、それをチームとして一つのことを作り上げることの重要性を学んだ。そのために、積極的に取り組み、議論を交わすことが重要だと感じた。

トヨハシ♡(ハート)ヨシプロジェクト

チームみよっキー（三好プロジェクト）

1. プロジェクトメンバー

小濱竜 (21123110) 夏目祐樹 (21123124)
森下広樹 (21123133) 大里将太 (21123210)
小田康晴 (21123211) 董立平 (21123226)
飛田知寿 (21023802)

2. 連携企業先・組織

プロジェクト運営に関して、ご協力、ご支援を頂いた

方々および組織は以下のとおりである。

- 豊橋観光コンベンション協会 鈴木恵子様
- 豊橋市(企画部 政策企画課) 鈴木裕二様
- 豊橋市(産業部 観光振興課) 鈴木誠也様
- 豊橋鉄道(鉄道部 運輸営業課) 織笠真至様
- 豊橋芸術劇場PLAT 飯田幸司様
- 豊橋生菓子組合事業委員会の皆様

3. プロジェクトの背景と目的

豊橋市は、産業、観光、文化などを広く伝える様々なプロモーション活動に取り組んでいる。本プロジェクトにおいて、学生が目線でできるシティプロモーション（CP）に取り組むことにし、豊橋にある自慢できる施設や取り組みを紹介することを目的とする。「こちよい街」をキーワードにしてテーマを「トヨハシ♡（ハート）ヨシプロジェクト」とした。プロジェクト活動を具体化するにあたって、以下の2つのサブテーマに分離して取り組む。

テーマ1：地産地消グルメ開発

テーマ2：ゆるキャラプロモーション

4. プロジェクトの内容

以下に2つのサブプロジェクト内容を説明する。また、それぞれの活動経過を表1にまとめる。

4.1 地産地消グルメ開発のプロジェクト内容

豊橋地域の製菓店を調査すると、豊橋産の原材料を使用したスイーツや地域文化を表すようなスイーツが考案され販売されている。しかし、そのことが若者に十分に周知されていない。さらにコンビニなどで手軽にスイーツを購入できるため、豊橋特産スイーツ離れが進んでいる。

そこで、豊橋のスイーツを調査し、その中から若者目線でセレクションを行って、若者に周知する活動を行う。このセレクション商品を「豊橋スイーツボーイズ&ガールズセレクション」としてマップにまとめて配布し、若年層の豊橋菓子店への回帰を推進する企画に取り組む。

豊橋生菓子組合に上記提案を行い、プロジェクトへの協力を依頼した。マップ掲載の商品に関する意見収集のために開催する試食会での商品提供の依頼を行い、2014年1月に80人程度の参加者で試食会を実施することになっている。その試食会の結果をスイーツマップにまとめて2月上旬に配布する。配布するマップにアンケートサイトをQRコードで示し、ケータイを活用したアンケートを実施し、3月下旬にその集計を行いプロジェクトの評価を行う予定である。

4.2 ゆるキャラプロモーションのプロジェクト内容

くまモンやバリィさんなどのゆるキャラが地域やまちおこしの道具と注目されている。豊橋公認キャラクターであるトヨッキーを活用したゆるキャラプロモーションに取り

表1 プロジェクト活動の経過

地産地消グルメ開発チーム		ゆるキャラプロモーションチーム	
日付	実施事項	日付	実施事項
5月16日	豊橋市企画調整課鈴木裕二氏よりシティプロモーションに関するヒヤリング・相談		
8月1日	市内洋菓子店にヒヤリング	7月19日	豊橋鉄道特設営業企画課へ協力依頼
8月23日	豊橋観光コンベンション協会へのヒヤリング・相談	8月8日	豊橋鉄道菓子供向けイベント取材
10月4日	市内和菓子店にヒヤリング	10月23日	シティプロモーションビデオvol.1をYouTubeにアップ
10月15日	豊橋生菓子組合への企画提案	11月9日	豊川B1グランプリ取材
10月18日	豊橋観光コンベンション協会へのヒヤリング・相談	11月28日	豊橋芸術劇場PLATへの協力依頼
11月26日	豊橋生菓子組合との協議1	12月3日	シティプロモーションビデオvol.2をYouTubeにアップ
12月	1月実施予定の試食会準備	12月10日	シティプロモーションビデオvol.3をYouTubeにアップ
1月16日	スイーツ試食会開催	12月12日	豊橋芸術劇場PLATビデオ取材
2月	セレクションスイーツマップ作成配布	12月20日	宮川彬良主催歌劇のリハーサル取材（予定）
3月	利用者の集計、まとめ	1月	取材ビデオの編集・アップロードとTwitterによる周知

※ビデオ公開をTwitterで拡散の努力を継続

組む。ゆるキャラプロモーションでは、トヨッキーを同伴して豊橋の誇れる施設を取材し、YouTubeでビデオ紹介することによって、豊橋の認知度向上に貢献する。

自慢できる施設を検討し、全国的にも希少な路面電車を有する豊橋鉄道と最近オープンしたばかりの豊橋芸術劇場PLATを選定した。また、近年、認知度の高いB-1グランプリの紹介することにした。取材のために、該当施設に取材許可を取り現地取材を行い、動画および画像の撮影を行った。その後動画編集をし、YouTube (<http://www.youtube.com/channel/UCxw05emVLHyT6CzXFFiGbzA>)へ動画を公開した。

現段階で、豊橋鉄道の2本の紹介ビデオとB1グランプリの紹介ビデオの合計3本を公開している。ビデオの認知度向上のために、Twitterを利用した情報周知活動に取り組んだ。PLATの取材は、施設に関する取材と舞台リハーサルの取材を行い、活気あふれるビデオ撮影を目指す。舞台リハーサルの取材は12月20日に行う予定である。

5. 実施プロジェクトのCPとしての評価

2つの特色をつけて学生目線でのシティプロモーション（CP）活動を行ったが、具体的な活動を計画して行動できた。それぞれの評価を以下にまとめる。

5.1 地産地消グルメ開発プロジェクト

食をテーマにしたシティプロモーションを目的に活動を開始したが、テーマ探求に時間を要したために、10月になってから豊橋生菓子組合の連携になった。地域課題に取り組んだことにより新聞掲載もされ、プロモーションとしての一定の効果があつたと評価できる。3月末に行うアンケート集計によりプロジェクトの効果測定を行う。

5.2 ゆるキャラプロモーション

豊橋には、紹介すべき施設や文化的な施設が多くある。時間の制約もあり、本活動で2施設4本のビデオと1つのイベント紹介の合計5本の紹介ビデオを制作した。限られた紹介ビデオの認知度向上のために、Twitterによる情報拡散の活動を行ったが、必ずしも効果的ではなかった。制作物の効果的な公表方法を検討しなければならない。

1. プロジェクトメンバー

味岡 美沙 (21123101)、加藤 綾乃 (21123109)、
藤田 諭実 (21123128)、辻井 友絵 (21123225)、
長坂 良恵 (21123229)、村上 雄也 (21123232)、
沼倉由香理 (21123624)、近藤 智基 (21123215)、
水藤 圭祐 (21123219)

2. 連携先企業・組織

- (1) 豊橋総合動植物公園 (通称：のんほいパーク)
- (2) 公益財団法人 豊橋みどりの協会
- (3) 豊橋市役所企画部シティプロモーション推進室
- (4) NPO 法人 ワライフ

3. プロジェクトの背景と目的

市営施設である「のんほいパーク」は、豊橋市のシ
ティプロモーション活動の一環として、入場者数の
拡大ⁱ⁾を目標のひとつとして挙げている。

本プロジェクトは、広報活動を通じて「のんほいパ
ーク」の活性化を図ることを目的としている（昨年度
からの継続）。今年度は、活動をさらに発展させ、

- ・ SNS (social networking service) の活用
- ・ ターゲットに対応した効果的な情報発信

の2点を軸として、効果的な広報活動（情報の拡散）
について理解を深めることを目標とする。

i) のんほいパーク 100 万人プロジェクト

4. 実施計画（スケジュール）

月/日	活 動 内 容
5/23 /30	Facebook, Twitter 稼働開始 協力依頼・取材 … のんほいパーク
6/21 /27	協力依頼・取材 … みどりの協会 意見交換 … 市役所企画部シティプロモーション推進室
7/ 3 / 6 /12 /21 /24 /26	取 材 … 植物園七夕イベント 参 加 … 行財政改革プラン公開プレゼンテーション 取 材 … 暑さ対策（フォグミスト） 掲 示 … 創造大学（三角柱POP） 依 頼 … 愛知大学（ポスター、リーフレット） 依 頼 … 豊橋技術科学大学（チラシ）
8/13～18	参 加 … ナイトガーデン
9/27	依 頼 … 学園祭協力依頼（缶バッジ寄付）
10/17 10/26・27 10/31	取 材 … チラシ・缶バッジ受け取り 創造祭 … アンケート実施、学内展示 YouTube 稼働開始
11/21 11/28	依 頼 … ワライフ 取 材 … トラ・ライオン
12/06	依 頼 … ワライフ（みどりの協会）

5. 実施報告

広報活動の成果物に関して表にまとめる。

ターゲット	メディア	制作物等
若年層（学生）	インターネット	Facebook, Twitter YouTube, Web サイト
	印刷物	三角柱POP (Vol. 1～4)
	印刷物	ポスター, リーフレット (ナイトガーデン)
シニア層	印刷物	雑誌「ワライフ」
若い主婦層	印刷物	うちわ(ナイトガーデン)
	印刷物	塗り絵, 動物写真館, 動物シアター (創造祭)
全層	印刷物	パンフレット, アンケート (創造祭)

ネット媒体が身近である若年層をターゲットに SNS
を使用した情報発信を行った。さらに、三角柱POP な
どを作成・設置することでSNS やWeb サイトへの誘導
を試みた。一方、ネット媒体が身近にないシニア層に
対しては、高齢者向けフリーマガジン「ワライフ」に
記事を掲載することで、情報発信を行った。

この他にも、若い主婦層をターゲットに、のんほい
パークの夏季イベントであるナイトガーデンにて、活
動内容を記載したうちわを配布し、創造祭では塗り絵
の配布や動物写真館などを行った。なお、ナイトガー
デンでは子供向け迷路の運営、創造祭ではのんほいパ
ークに関するアンケートを実施し、のんほいパークへ
の協力を行った。

6. プロジェクトの成果

SNS を活用した広報活動の結果として、Facebook の
いいね数は102人・Twitter のフォロワー数は104人
(2013年12月現在)となっている。このことから、
一定の広報効果があったとし、のんほいパークの活性
化に広報活動の面で微力ながら協力できたとする。

取材を行ったり、情報をまとめたり広報活動の過程
を様々な形で体験することができた。その中で、
Facebook などを継続的に行うことや、ターゲットに
合った情報発信など、大変なことが多かった。けれど
も、制作物を作成していくなかで、自然と相手に「わ
かりやすく・伝わりやすく」を考えながら作成してい
くことができ、今後の成長につながったように思える。